

講 評

審査委員長

(独) 森林総合研究所北海道支所長 かわじ 川路 のりとも 則友

川路でございます。審査委員を代表いたしまして一言申し述べさせていただきます。まずは今回発表された皆様方におかれましては、日常の業務また学業等で大変ご多忙のかたわら、情熱を持ち積極的に取組まれた結果、諸課題に関して得られた成果というものを、きっちりと取りまとめられ発表されていた、そのご努力に対して深く敬意を表します。今回の発表会において審査対象とした課題は、国有林組織独自による課題が21課題。北海道上川総合振興局、下川町、寿都町、黒松内町といった自治体から独自に出していただいた4課題。その他国有林組織と関係諸機関、北海道大学、森林総研、森林環境リアライズ、占冠村づくり観光協会、サンエイ緑化、定山溪中学校といった、大学、中学校、自治体、NPO、民間団体の方々と共同して応募いただいた6課題。またそれに加えまして、今回は岩見沢農業高校、静内農業高校ならびに札幌旭丘高校、高校生のほうから3課題の意欲的なエントリーがあり、合計34課題という多くの発表がございました。まさに国有林と関係諸機関との技術交流発表会の趣旨が、かなり反映されていることを示しているものだと思います。部門別では、昨年に引き続き「森林技術」「森林ふれあい」それから「国民の森林(もり)」部門の3つを基本といたしましたけれども、本年度は特に3つ高校からの応募があったということで、それに「高校」部門も加えて合計4課題の審査ということにいたしました。審査はタイムリーさ、それからアピール性というのを重視する課題設定についてのポイント。それから着想の豊かさ、分析の深さなどを審査する取組み過程についてのポイント。それから成果の実用性や応用性、さらにはプレゼンの際の発表態度、スライドの見やすさといった技術的なもの。そういった多岐にわたる観点から見て総合的に審査してもらいました。今回発表された課題は長期的な視点の中で、これもまた先人の方々の努力を生かして、より理想的な森林の姿へと誘導していく積極的な取組み、森林技術ですね。それから生物多様性に配慮した森林づくり等の手法の提案など、非常に有用で実用的な成果でありますとか、国民の森林としての位置づけをよく理解し、まわりへの普及啓蒙を深く意識した活動。それから国民の財産になる森林の価値を高めるための各地域と一体化して取組んだ活動。特に私は地域の小学校・中学校の先生方いわゆる教員に対する普及活動、学校環境教育、そういったものを行っていることを知りまして非常に面白いなど。実を言いますと子供さん達への環境教育というのはもちろん重要でありまして、非常に有効であります。かたや教育のプロである教職員に対して、そういう教育を行うということは、それが実際に広がっていく一つのきっかけになるものをつくりあげる、なかなかよい活動ではないかと感じています。そのように、それぞれの課題における活動の素晴らしさ、熱意など、十分に伝わるものばかりでございました。このような中で、実際に決まりでございまして、いくつかの賞に値する課題ということで選ばざるを得ないこととなります。賞を選ばせてもらいましたけれども、審査結果について後程、事務局から発表させていただきますけれども、先程も申し上げましたように素晴らしいものばかり、どの課題も本当に甲乙つけがたく、各賞決定するにあたりましては審査委員一同大変苦慮いたしました。従って、もし今回受賞を逃したといたしましても、その差はきわめて僅少であったということ、ぜひご認識いただいて、今後とも引き続きそれぞれの活動に取組まれ

ることを期待いたします。あと2、3点気づいたことを申し述べたいのですが、一つは発表の仕方ということで、これは昨年感じたのですが、タイトル、題名ですね。これは特徴といえば特徴ですけれども、お堅いものが多いです。すなわち、なにになについて、なにになの取組み、なにになの調査とか。たしかに発表課題としては、そういう題名はありえるのですが、中身をみないと、そのタイトルから判断できない。私どもの学会等の発表について言いますと、タイトルで6、7割の印象を決める。タイトルで、いわゆる「つかみ」という部分です。このタイトルをみると、聞きたいな、こういうことを言っているのかな、ということを示す。そういう特徴が全てとはいませんが、一つそういう遊び心とってはおかしいですけれども、たとえば体言止めですとか、クエスチョンつきとか、感嘆符つきとか、そういった工夫がもし可能であれば、来年度でも試みていただければなという感じがしました。それからプレゼンの手法については、もう私の方から言えるようなことではなくて、非常に感心するものばかり。いわゆるパワーポイントというソフトウェアの特性をフルに活用して、アニメーションがあり、いろんな工夫があり、それから表現の仕方が充分考えに考えぬかれて、非常に楽しく見せていただくプレゼンでございました。そういうところで、他の方々がされる素晴らしいプレゼンというのは非常に参考になります。こういったものがあるということ、ぜひ参考にさせていただいて、次に生かしていただければと思います。ただ一つ、これはなかなか申し上げにくいことですが、若干、たんとんと原稿を読まれていた方々が見受けられました。確かに12分という時間の制限というのがございまして、12分きっちり終わられる発表者が多いのに、私はびっくりいたしました。それはずいぶん練習をされたらうな、その努力に頭が下がるのですが、表現の仕方、せっかくプレゼンとしてスライドを出されているわけですから、出されているプレゼンの中で特に自分たちが言いたい、そこを強調したいところで、強弱というものをもちこたせるということも大事なのではないかと。私もよく経験することですけれども、人の発表を聞いて、たとえばスライドが10枚とか20枚とかありましても、どうしても印象に残るスライドというのは1枚か2枚です。特に自分が聴衆のほうにまわった場合に、どのスライドが一番印象に残ったかというのをみると、だいたいそのへんを覚えると、自分たちがここだけを見て欲しいというスライドを中心にして発表していく。そういったことが、おそらく聞く人の胸をつくことになるのではないかと考えています。以上、森林・林業に関するということは、ご承知のようにほとんどは長期戦ということでございます。すぐには成果を得られないということが多々ありますが、いわゆる「継続は力なり」という言葉のとおり、粘り強く日頃の問題意識を持って、創意工夫を地道に続けていくことが大切だと私は考えております。最後に当発表会が今後とも多くの発表課題とともに盛大に開催され、また森林情報の発信地点の一つとして、一層定着していくことを祈念して私の講評とさせていただきます。ありがとうございました。

平成22年度北の国・森林づくり技術交流発表会 受賞者一覧表

受賞者	発表課題名	所属	氏名
局長賞 (森林技術部門)	針広混交林への誘導に向けた除伐方法 (除伐Ⅱ類の活用)	宗谷森林管理署	島博 義博 高木 理絵 石水 尚輝
局長賞 (森林ふれあい部門)	国民参加の森林(もり)づくりのボランティア団体との 取組み	石狩森林管理署	菊地 誠
局長賞 (国民の森林部門)	地域のもりから学ぶ森林づくり ～森林の生物多様性を学ぶ～	石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 定山溪中学校 同上	松本 誠 高橋 美咲 陰山 敏太
局長賞 (高校部門)	「しずない二十間道路桜並木」を活用した環境教育 プロジェクトの実践	北海道静内農業高等学校 同上 同上 日高南部森林管理署	館山 一樹 反保 大地 五十嵐 直樹 山本 謙也
日本森林技術協合理事長賞	山取り苗と表土ブロックによる土場跡地の緑化	十勝東部森林管理署	帆足 直也 三間 武
日本森林林業振興会会長賞	多様な調査手法に対応した新型樹種別再掲表等の活用について	空知森林管理署	土屋 修久
特別賞 (森林技術部門)	カラマツ樹層林における下木の間伐について	根釧西部森林管理署	重藤 有史
特別賞 (国民の森林部門)	我が署における人材育成活動	網走西部森林管理署西紋別支署	国沢 修 貞 久男
奨励賞 (森林技術部門)	当署の低コスト・高効率作業システムの取組みについて	十勝西部森林管理署 同上 有限会社サエンエイ緑化	北 章吾 日野 道俊 邊見 秀明
奨励賞 (森林ふれあい部門)	海と山の森林づくり ～循環する社会を目指した取組み～	寿都町産業振興課	土開 直樹
奨励賞 (森林ふれあい部門)	黒松内岳ブナ林再生プロジェクトの2010年度活動報告と 林内のブナ苗畑作りについて	黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会	斎藤 均 新川 幸夫 茂尾 実
奨励賞 (高校部門)	保存食・救荒食の再現、トチノミの食用利用について	北海道岩見沢農業高等学校	岩田 和馬 三本 岳人 橋本 勇太
奨励賞 (高校部門)	トンボを通して見る石狩川の自然再生PartⅡ ～トンボ相の多様性から水辺の環境を診断～	北海道札幌旭丘高等学校	内田 葉子 岩田 夏実

平成22年度北の国・森林づくり技術交流会審査委員

審査委員長	(独) 森林総合研究所北海道支所長	かわじ 川路	のりとも 則友
副審査委員長	北海道森林管理局計画部長	うちだ 内田	としひろ 敏博
審査委員	北海道大学大学院農学研究院教授	やじま 矢島	たかし 崇
審査委員	<small>社団法人</small> 日本森林技術協会北海道事務所長	わたなべ 渡邊	たいち 太一
審査委員	<small>財団法人</small> 日本森林林業振興会札幌支部長	たなか 田中	とみお 富雄
審査委員	北海道森林管理局森林整備部長	うえの 上野	しろう 司郎
審査委員	みずもり会議 副代表	ますだ 増田	さちこ 幸子

あとがき

平成22年度北の国・森林づくり技術交流発表会は平成23年1月27日、28日の2日間にわたり、北海道森林管理局大会議室で開催されました。厳寒の中、早朝より国有林関係者はもとより、北海道の林業関係者等外部からの入場者は、合わせて200名近く見られました。

1日目は、一般発表として国有林、北海道森林室、企業、高等学校、NPO等から27課題の発表がありました。内訳は森林技術部門16課題、国民の森林部門8課題、高校部門3課題でした。

2日目の午前には、森林ふれあい部門7課題の発表があり、午後からは試験研究機関より、3課題の森林・林業再生に関する特別発表が行われ、最後は特別講演として、北海道大学大学院農学研究院の柿澤宏昭教授よりご講演をいただき、今年度の発表会を締めくくりました。

参加された方の益々のご活躍を御祈念申し上げます。

平成22年度
北の国・森林づくり技術交流発表集
平成23年3月発行
発行者 北海道森林管理局
編集 指導普及課
札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
IP電話:050-3160-6285
TEL:011-622-5245
ホームページ
www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html